

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成27年 1月 6日 更新

事務事業名		解放子ども会学習会開催事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会事務局	課長名	大高 和弘	
	施策	23	人権が尊重される社会づくり					所属課	人権啓発教育課	担当者名	宮崎 勝之	
	基本事業	74	人権尊重についての理解の促進					所属班	啓発教育班	(内線)	2512	
予算科目		会計一般	款10	項5	目4	事業連番10861	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑤ コスト削減優先度評価結果 : ⑤				
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 50 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	昭和46年頃、同和教育推進教員(当時)の配置により、同和地区子どもたちの部落差別の解消を目的に始まった。解放子ども会(小・中・高校生)学習会は、解放子ども会会員(市内の児童・生徒)を対象に解放学習や教科学習を主に実施している。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	5月の開講式の際に小・中・高校の先生へ学習会講師の委嘱を行う。開講式前までに解放子ども会会員、講師の委嘱を行う先生へ保険をかける。8月は小中学生キャンプリーダー研修、キャンプを開催する。年3回(4ヶ月に1度)学習会講師へ謝金を支払う。学習会開講式、閉講式に出席する。開講式時には、委嘱状交付があるので、事前に委嘱状の準備をする。その他、学習会に必要な用品の購入を行う。(随時)
【主な予算費目】	報償費、需用費、役務費
【意見や要望】	議会より、学習会を行うことが逆差別につながらないようにとの意見あり。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
解放子ども会学習会(小学校・週1回、中学校・週2回、高校・週1回)及び、人権教育子ども学習会(中学校・週1回)を開催した。8月に解放子ども会、人権教育子ども会の小・中学生合同のキャンプを実施した。	前年度と同じく学習会の開催と、8月は解放子ども会、人権教育子ども会の小学生・中学生合同キャンプを実施する。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア:学習会開催回数	回	対象地区の児童・生徒数が減少しているため、参加者数にも影響が出ている
イ:学習会参加者数(延べ人数)	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
解放子ども会会員(児童・生徒)	人	→ ア:解放子ども会会員数
		→ イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
差別に負けない力をつけることができる。	人	→ ア:差別を見抜く力を身につけた人の数
		→ イ:
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
差別を見抜く力を身につける事が差別に負けない力をつけることにつながるため。目標値は解放子ども会会員数		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込
①活動指標	ア 回		174	208	200	175	200	200	200	200
	イ 人		541	535	1,200	519	900	900	900	900
②対象指標	ア 人		25	22	50	20	50	50	50	50
	イ									
③成果指標	ア 人		25	22	50	20	50	50	50	50
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,920	1,872	1,860	1,605	1,923	2,012	2,012
	(A)事業費計		千円	1,920	1,872	1,860	1,605	1,923	2,012	2,012
		(A)のうち指定経費	千円	183	153	196	95	199	186	186
		(A)のうち時間外、特勤	千円	170	140	183	82	186	173	173
人件費	正規職員従事人数	人	5	5	4	4	4	4	4	4
	延べ業務時間	時間	640	400	320	380	320	320	320	320
	(B)人件費計	千円	2,584	1,628	1,302	1,513	1,302	1,302	1,302	1,302
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,504	3,500	3,162	3,118	3,225	3,314	3,314	3,314

事務事業名	解放子ども会学習会開催事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	人権啓発教育課
-------	---------------	-----	----------	-----	---------

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 子どもの数が減少している事により、会員数は減ったものの、参加された子ども達はみんな、差別を見抜く力を身につける事が出来た。	☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 学習会に参加された子ども達は、学習会やキャンプ等を通して、仲間づくりや部落問題についての学習を深める事ができる。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 子どもたちが参加しやすいように学習会の内容を検討することにより多くの子どもたちの参加が見込める。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はほかにない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最低必要な経費のみを計上しており、これ以上の削減は見込めない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 必要最小限の職員で対応しており、これ以上の人件費の削減は見込めない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 解放子ども会の参加者は、市内の児童・生徒であり、差別に負けない力の育成をめざし学習を行っているため、公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 差別をなくす取り組みは、行政の責務であり、役割分担は適正である。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

参加した子ども達は、部落問題について学習を深め、差別を跳ね返す力を身につけることが出来た。キャンプでも、仲間づくりやみんなで協力し合って作業する事等いろいろな事を学ぶ事が出来たが、子どもの数がだんだん減ってきており、学習会の参加人数も徐々に減少しつつある。今後、子ども達が参加しやすいよう内容を考えていく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）